

CBC NEWS

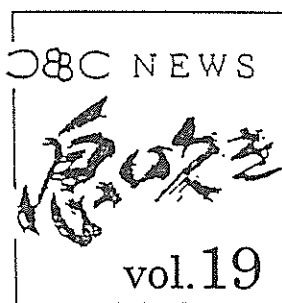
グローバル化の激しい国際社会で、日本の政治・経済システムが内向的になり、閉塞感が漂うという内外の有識者の厳しい



「世界の中の日本」というシンポジウムで、グレン・フクシマ氏、中西輝政氏ら著名な方々と発題された小和田恒氏の言葉が気になった。「戦後、日本人はある意味で国際社会の現実から隔離され、自分たちで一方的に造り上げたバーチャルな世界の中で外の現実を直視せずに生きてきた」という。

見張り所に立て

批判の声が確かに聞こえてくる。だが、永田町や兜町がそうだからといって、教会も、神学校も、教団もそれと一緒にされてはたまらない。しかし、足元だけを見て宣教し、牧会し、神学すると、同じ轍を踏む可能性が多分にある。大局が見えるか見えなしか、見ようとするかしないか、によって結果が全く違ってくる。自分の目で見える領域に閉じこも



孫、イエス・キリストの系図」とまで記される栄誉に与った。一部の政治家のように自分の足元だけを見ながら宣教することを主が望まれる筈がない。イザヤ、エレミヤのような大預言者の風格がなくても、「見張り所に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう」(ハバ二・一新改訳)という心構えで、世界の動きを観察し、祖国を見、地域社会に接し、教会を牧会するなら、そして、神学校で学ぶなら、ハバククが見た神の動き(ハバ三・一八・一九)を、我々も見ることができ

今年はこの駒込でも桜が例年より一〇日程早く開花した。幸い咲き始めの時以外は好天に恵まれ、長く満開の桜を堪能することができた。短い時を精一杯咲いている桜は、私たちに主から頂いた命の大切さを訴えているように思えてならない。しかし私たちは喜んでばかりはいられない。地球の破壊が着実に進んでいるからだ。折りしも世界の二酸化炭素の四分の一を排出している米国が、経済成長を理由に京都会議の合意から離脱した。丁度バネが弾性限界を超えるとその瞬間から元に戻らないのと同様に、神がお造りになった地球の自浄能力も、ある限界点を超えたらもう元には戻らないという。神から禁じられた善悪を知る木の実を食べた人類は、神から与えられた地球を管理する責任を、もう果たすことはできなくなっているのだろうか。(M・M)

静心

CBC NETWORK

三月一二日にアジア神学大学院の学位授与式がチャペルにて行なわれ、込尾隆義師がTh・Mを取得された。

四月三日に中央聖書神学校の入学式が行なわれ、一二名の新入生と一名の分校からの進級生が入学した。分校では関東分校生三名、関西分校生一名が教会奉仕者コースに入学した。

四月四、五日に聖別会が持たれた。講師は内村徹母耳師とダビデ・ハイムス師であった。

初めての公開講座「IT社会と教会」が能城一郎師により四月からスタートし、聴講生約一〇名が参加している。

四月二六日ジェームス・フィールド師夫妻がチャペルでご奉仕して下さいました。

五月二、三日に関東聖会で学生が奉仕をした。

五月三〇日に植野興夫師を迎えて特別講義「ゲノム時代における癌と聖書」が行なわれた。

六月六日にアブラハム・リュウ師を迎えて、海外宣教祈禱会が中央聖書教会と合同で行なわれた。

伝道用ギター、キーボード募集

路傍伝道などの野外活動で使えるギター、キーボードを探しております。もし、ご自宅で見なくなったギター、キーボードがありましたら、献品して下さい幸いです。

訂正とお詫び

前回のCBCニュース四頁、卒業生森下友子師の出身教会が「明石教会」となっていました。が「三木アガベ伝道所」の間違ひでした。ここに訂正し、お詫び致します。編集部

後援会のご案内

中央聖書神学校が教団の伝道者養成期間として発足以来、すでに五一年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解いただき、是非本会にご入会くださるようによりお願い申し上げます。

中央聖書神学校後援会
会長 山田 亘

後援会入会要領
個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万元

☆連絡は中央聖書神学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

神学校に入学して、一ヶ月が過ぎようとし、ようやく生活に慣れてきた気がする。

今は、神学校の生活に慣れるので、精一杯ということが多い。ふと、そういう時に、どれだけ自分がイエス様と交わっているだろうかと思う。

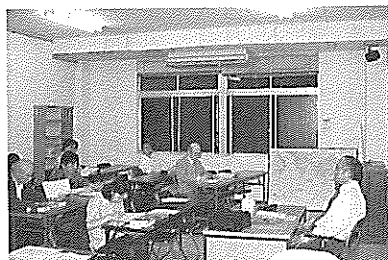
ただ主のためと思い、忙しく生活していいのだろうかと思う。子供のようには、純粋な気持ちで神様の御言葉を聞く者となっていきたい。(M・F)

編集スタッフ
菅原 洋子 内田 信恵
瀧上 博子 竹中 範明
山岸よしあ 宮澤 幹彦
古川 雅香

編集責任者 白石 禎男
事務局 中央聖書神学校
豊島区駒込三二五二〇
TEL 〇三・三九一八・四九二五
FAX 〇三・三九一八・四〇六四

分校だより

～西から東から～



中央聖書神学校に分校制度が導入されたのは、一九八七年にさかのぼり、まず関西分校が設立されました。それから一年遅れて、一九八八年に関東分校が始まりました。振り返って見れば、関西分校は開校して一四年、関東分校は一三年になります。

この間、多くの方々が分校で学ばれましたが、分校修了者の中で、本校に移られ、卒業し教職となられた方々は、関西分校から九名、関東分校から四名、現在分校を経て本校へ進級している学生は、関西分校から二名、関東分校から一名となっています。

また教会奉仕者コースの修了者は関西分校一名、関東分校一名で、彼らはそれぞれ

の所属教会で信徒リーダーとして活躍しています。

分校制度は、献身者の掘り起こしと、家庭や仕事の事情などで、すぐに本校に来ることができない方々のために設けられたもので、今も関西分校では一名、関東分校では一七名が学んでいます。関東分校の一七名の中には、二名の本校生を含んでいます。彼らは本校生ですが、事情で分校での学習により、本校所定の履修科目(履修単位)の一部を取得することになっています。

学生の中には、社会人として長年活躍してこられて定年退職をされた方々、また教会献身者や家庭婦人など、さまざまな背景の中から集まっておられますが、年齢や立場の差を思わせないような、和やかな学習が続いています。

カリキュラムは本校に準じて、聖書科目一六科目、神学科目二科目、歴史科目三科目、教育科目三科目、実践科目八科目の三二科目、六四単位を

履修するように組まれています。学習は、毎週、火曜日と金曜日に各二科目ずつ行われています。そして一時限を九〇分授業とし、一時限と二時限の間にはチャペルが持たれ、霊的な恵みにも与ることが学生たちの励ましとなり、また力となっています。この時は、文字通り、恵みの分かち合いとして貴重な時間となっています。

今後は、ますます分校で学びたいと思っておられる方も多くなってくるが予想されますので、さらに充実した学びを提供し、諸教会のニーズに応えることができるように整えていくことが、現在の課題となっています。



新入生の紹介

二〇〇一年度は、次の四名の方々が教会奉仕者コースに入学されました。

● 関東分校
石原 潔 草加神召教会
斎藤 明 西東京教会
米川 幸子 陽光教会

● 関西分校
勝間和枝 寝屋川福音教会

中央聖書神学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来たれ!

入学資格: 受洗後2年以上を経た忠実な教会員
高校卒業以上

住 所: 〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20

電話番号: 03-3918-4925

http://www.cbc-j.ac.jp

入学案内は学校事務所にお申し出下さい。

私たちの献身

四月三日、CBCに新しい献身者が加わりました。



小石臨

「これだけ多くの者たちが皆滅びに向かって走り行くのをこのまま放っておくのか」。昔、勢よく走り出す満員電車をホームで見送る私に、そのような言葉が響いて来たことがあります。それから幾年、迫る思いに押し出され、分校に通い折る中、主の召しを頂き、神学校に入る事ができました。主のために何ができるのか。滅び行く魂のために何ができるのか。この日本のために一体何ができるのか。御心を仰ぎ、御言葉を携え、与えられる行程を走り出したいと思えます。ホームの外へ飛びいでて。(千葉グレイスチャーチ)



越智晃

「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠の命に至る食物のために働きなさい」。六年前に受けた御言葉ですが、昨年大きな挫折を経験した私は、献身を考えられなくなっていました。そのどん底の中から、多くの兄弟姉妹の祈りと愛、聖霊様の取り扱いを受けて、今ここにいます。主の御言葉、その愛、力、素晴らしさを、私自身さらに味わい、多くの方に伝えたいです。(新居浜福音キリスト教会)



菊池知子

長い間、仕事を通して証していくことが主の御心だと考えて



木下美紀

ハレルヤ! 主の御名をたたえます。神様の導きにより、中央聖書神学校へ入学することができ、感謝しています。主の御言葉をもちと深く学びたい



倉橋由香

ていました。しかし、主は夫の献身を通して、何が一番大切かというチャレンジを与えて下さいました。そして祈りの中で、「伝道に専念したい」という全く新しい思いを与えて下さり、すでに一〇年近く前に、御言葉(イザヤ四三章四節)を備えて下さっていたことをも示して下さいました。ここに導かれるまで多くの兄弟の祈りがあつたことを心から感謝します。さらに主の御心を求めて祈り続けていきたいと願います。(篠原教会)

と思う気持ちがあり、また、マルコ八章三五節の「いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者はそれを救うのです」という御言葉が与えられ、献身の決心をした時に真の喜びが与えられました。(八王子シャロン教会)

主の御名を賛美します。「イエス様について行きたい。イエス様と一緒に、神の国のために働きたい」。内に起こる熱い思いを主は受け取って下さり、「神の賜物と召命とは変わる事がない」との御言葉により、私を召し出して下さいました。肉体的弱さに泣かされること、がしばしばありますが、「弱さの中に完全に働かれる主」に支

私たちの献身

器師なる主が主権をもって導いて下さることに信頼し、最後に天国で主から「よくやった、良い忠実な僕だ…」と言って頂くのを楽しみに、ひたすら前を向いて進んで参りたいと思います。（成田キリスト教会）



吉永豊

高校三年時に献身表明をしていたのに、この春入学した私は三三歳になっていました。「あれ？」「失われた一五年はどこに？」正直、主のお心に尋ねること少なく、自分の都合を最優先していました。けれどもそのような私の考えや行動をはるかに超えて、主は最も良い時を備えて下さいました。主の導きの時は「今」だと確信します。特にこれといった才能がない所が私の特徴ですが、弱い私

さえも、もちいて下さる主に、依り頼んで歩んでいきたいと思えます。（町田聖書教会）



古川雅香

「先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける」と神様から献身の召命を頂きました。恐れもありましたが、イザヤ書四一章一〇節「恐れるな、わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしがあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」と神様は言っているのだから、今、一人でも多くの人に神様の愛を

伝えていきたいと思えます。（堺キリスト教会）



伊東衛

私が献身を決意したきっかけは、ある先生からの預言でした。その当時、私は職場を変えたばかりで、一生信徒として新しい職場でやっていこうと心新たにしていたところでした。ですから、その預言は私を困惑させましたが、同時にその預言が本当ならば従いたいと思いました（聖なる動揺?）。そこで御心を求めて祈っていくと、神様は御言葉と不思議な方法を通して私と妻に献身の確信を与えて下さいました。神学校に合格できたことも神様のメイク・ミラクルです。今まで支えて下さった福島セントラルチャーチの兄弟、ありがとうございます。

ございました。（福島中央キリスト教会）



佐藤満子

「この道を行きなさい。私はあなたにすばらしい奉仕の道を与えよう」。この約束は、結婚の導きを確かなものとして祈り求めた時に与えられた主の語りかけでした。あれから八年が経過しましたが、このように訓練の道が開かれたことを心より主に感謝しています。主を第一として全生涯を捧げつくしたいという熱い思い、主からの迫りを受けたのは、五年前のことでした。マタイ六章二三節の御言葉をもって、神の国の働きのために仕えるように、主はあえて弱い者を選び、召し出して下さいました。イエス様から目を離さず従い続けて参ります。（川崎中央福音教会）

私たちの献身



「目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈り入れを待っている」。高校二年生の時、北



佐々木健

えられながら、ここまで来ることができました。多くの方の励まし、助け、祈りに感謝します。死に至るまで忠実でありたいです。(高槻キリスト教会)

海道聖会で語られたこの御言葉が私の心を捕らえて離れませんでした。主は日本にいる数多くの救われていない魂に気づかせて下さり、その一人一人が主に愛されている存在であることを教えて下さいました。「こんな私でもよければ、主よ、あなたの働き人として用いて下さい」。六年前のこの祈りは今も変わっていません。生きる限り主に従い、主に栄光を帰す歩みを目指していきたいです。(釧路神愛キリスト教会)



佐原千津

主の聖名を賛美致します。これまでの歩みの中で神様が私に与えて下さった、たくさん恵みに感謝し「今度は私が神様のために働きたい」という思いを持つようになりました。それ

から二年の月日がたち、そしてこの春「誰でも私について来たいと思うなら自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そして私について来なさい」(ルカ九章二三節)という御言葉によって召し出され、中央聖書神学校の門をくぐりました。神様の愛と皆様の祈りの支えられて進んでいきたいと思えます。(山形神召キリスト教会)



谷口芳彦

一九九九年八月より三カ月間の祈りの中で主は、マルコ一章二九、三〇節を示して下さいました。この御言葉をいただいた時、私のために長く忍耐して下さった主の限りなく広い心と深いご愛を知らされ、深い感動の中で今こそ主に応答したいという思いがあふれて

参りました。「主よ分かりました。あなた様の福音のために、私の仕事を捨てます」と祈っていました。大波のような喜びが私の心に押し寄せてきました。昨年二月末に三六年間の会社生活にピリオドを打ち、一年間、教会献身者として備え本年四月に入學を許されました。ハレルヤ。(高知聖書教会)



宮澤幹彦

ビジネスの第一線を離れた時、祈りの中で私に受洗以来今日に至るまでの、主の数え切れない程の多くの恵みを思い出させて下さいました。そして、残りの人生が価値在るものとなる道は唯ひとつ、主の仕事をするしかないかと教えて下さり、奇跡をもってこの学校に導いて下さいました。これからは陶